

10th

Anniversary

of

The National

Art Center,

Tokyo

国立新美術館

開館10周年

2026

2025

2024

2023

2022

2021

2020

2019

2018

2017

報道関係各位

2017年1月20日(金)～1月30日(月) ※1月24日(火)は休館

「国立新美術館 開館10周年記念ウィーク」 のお知らせ

国立新美術館は2017年1月21日(土)に開館10周年を迎えます。これを記念して、1月20日(金)～30日(月)の期間を「開館10周年記念ウィーク」とし、館内でスペシャルイベントを実施いたします。前回、ご案内差し上げたリリースから、イベントの内容がさらに充実、詳細が決まって参りましたのでお知らせいたします！国立新美術館がもっとみなさまに親しんでいただけるように、さまざまなアート表現を紹介し、だれもが楽しめる活動を展開して参ります。

開催概要

期間：2017年1月20日(金)～1月30日(月)
※1月24日(火)は休館
開館時間：10:00～18:00
金曜日、土曜日は20:00まで
(入場は閉館の30分前まで)

2017年1月21日(土)は開館10周年を記念し、
展覧会観覧料が無料に！

開館記念日の2017年1月21日(土)は
開催中の全ての展覧会の観覧料が無料となります。
企画展示室2E：「19th DOMANI・明日展」
展示室1A～1D、2A～2D、3A・3B：
「第65回記念 独立書展」

開館10周年記念ビジュアル クリエイティブ・ユニットSPREAD

国立新美術館の10周年を記念し、ポスターを始めとするアイテムに記念ビジュアルを展開します。コンセプトは「10のグラデーション」。10段階の色が重なり濃度を増していくさまは10年間の凝縮でもあり、これからの10年の象徴でもあります。この四角い日の丸のようなシンプルなグラデーションは、来場者を大らかに迎え入れ、積み重なる層は想像力と創造力を呼び覚まし、館内外に展開して場をつくります。デザインはクリエイティブ・ユニットSPREADが担当。ポスターは「未来の10色」を掲げ、「創造」「光」「経験」「希望」「魅惑」「愛」「飛翔」「挑戦」「謎」「ヒューマニティー」をテーマとした10色展開。2017年の1年を通して彩ります。



10周年についての最新のイベントやプログラム情報を随時、お届けします！

HP <http://www.nact.jp/> Facebook <http://www.facebook.com/nact.jp> Twitter @NACT_PR #新美開館10周年

特別展示

10周年記念ウィークの期間中は、特別展示を実施いたします。

会期：2017年1月20日（金）～1月30日（月） ※1月24日（火）は休館

10周年記念ウィークの期間中、エマニュエル・ムホーの色彩を駆使した会場デザインによる国立新美術館の紹介展示、および「アーティスト・ファイル2010—現代の作家たち」展出品作家である石田尚志による映像インスタレーションをご覧ください。

1 NACT Colors —国立新美術館の活動紹介

国立新美術館は、①展覧会、②教育普及、③美術資料、④美術の情報収集と発信、の4部門を軸に活動しています。

10周年記念ウィークにあわせ、普段は大型の美術展を開催している企画展示室1Eを舞台に、それぞれの活動を紹介します。会場デザインを担当するのは、フランス出身の建築家・デザイナーのエマニュエル・ムホー。「色切/shikiri」というコンセプトに基づくデザインや「100 colors」のインスタレーションを通じて色彩と空間を融合し、色のもつ圧倒的な魅力を伝えてきました。ホワイト・キューブの展示室とガラス・ファサードを特徴とする国立新美術館は、いわば大きな無色の箱。それを彩ってきたのが、さまざまな展覧会や教育普及プログラム、美術をめぐる情報や資料です。ムホーの華やかな色彩のインスタレーションとともに、国立新美術館の活動のすべてを体感してください。

時間：10:00～18:00 金曜日・土曜日は20:00まで（入場は閉館の30分前まで）
会場：企画展示室1E 観覧料：無料

2 石田尚志 映像インスタレーション

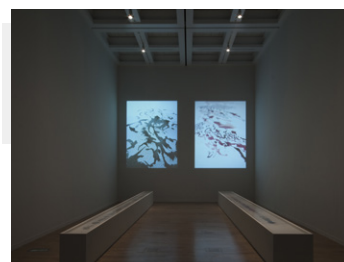
ドローイングアニメーションという手法を用い、映像作家/美術家として着実に地歩を固めてきた石田尚志。国立新美術館で開催された「アーティスト・ファイル2010」展に出品した際にも大きな反響を呼びました。近年石田は、美術館の展示室でのインスタレーションはもとより、屋外での大掛かりなプロジェクション・マッピングでも注目を集めています。今回の展示では、地下鉄から美術館への通路に作品を投影する予定です。めぐるめくような映像世界により、通常は展示に馴染まない即物的な空間がどのように変容するか、乞うご期待ください。

時間：10:00～18:00 金曜日・土曜日は20:00まで（入場は閉館の30分前まで）
会場：地下鉄千代田線乃木坂駅6番出口すぐ、国立新美術館への連絡通路 観覧料：無料



エマニュエル・ムホー

建築家/デザイナー。フランス生まれ。1996年より東京在住。emmanuelle moureaux architecture + design主宰。東京の“色”と街並が成す複雑な“レイヤー”と、日本の伝統的な“仕切り”から着想を得て、色で空間を仕切る「色切/shikiri」コンセプトを編み出す。色を大胆に取り入れた建築（巢鴨信用金庫 他）、空間デザイン（ABCクッキングスタジオ 他）、アート（UNIQLO、ISSEY MIYAKE 他）など多数のプロジェクトを手掛ける。東北芸術工科大学准教授。www.emmanuelle.jp



石田尚志 《海坂の絵巻》2007年、《色の波の絵巻》2010年。「アーティスト・ファイル2010」展（国立新美術館、2010年）の展示風景。

石田尚志

映像作家/美術家。1972年、東京生まれ、東京在住。線をコマずつ描いて撮影するドローイングアニメーションという手法を用いて、運動と時間、空間を含み込んだ変幻自在なイメージを創り出してきた。最近の主な個展として、「石田尚志 渦まく光 Billowing Light: ISHIDA Takashi」（横浜美術館/沖縄県立博物館・美術館、2015年）。「あいちトリエンナーレ2016」（愛知県美術館他、2016年）では、展示会場でのインスタレーションに加え、豊橋市や名古屋市内の建物の外壁に大規模なプロジェクションを行った。多摩美術大学准教授。

特別プログラム

10周年記念ウィークの期間には、
幅広い世代にお楽しみいただける多彩なプログラムを企画しています。

1 シンポジウム1 展覧会とマスメディア

1950年代以降の日本では、大手新聞各社が美術展を主催するようになり、やがて放送局も参入し、美術館とマスメディアが共同で展覧会を企画する我が国独自のスタイルが確立されました。しかし今日、観客の志向の変化や展覧会の一層の商業化により、状況は大きく変化しつつあります。本シンポジウムでは、マスメディア共催による美術展の歴史的な経緯や海外の事例をふまえて、今後の展覧会のあり方を考察します。

日時：1月21日(土) 13:00～17:30(開場12:30)

会場：3階講堂

参加費：無料・申込不要

定員：260名(先着順)

司会者：青木保(国立新美術館長)

登壇者：井上昌之(日本経済新聞社文化事業局

兼 経営企画室シニアプロデューサー)

高橋明也(三菱一号館美術館館長)

前田恭二(読売新聞東京本社編集局文化部長)

養豊(兵庫県立美術館館長)

村田真(美術ジャーナリスト)

南雄介(国立新美術館副館長)

※日本語のみです。

2 シンポジウム2 「アーカイヴ」再考

現代美術と美術館の新たな動向

現代美術の展覧会を訪れて気づかされるのは、世界の断片を拾い集め、その集積によって新たな世界を構築するような作品や、資料を提示するかのような展示の方法が確実に増えていることです。

これらは、「作品」という概念を転覆させ、観る者にまったく新しいアプローチを要求してきます。本シンポジウムでは、この「アーカイヴ」的な傾向が、美術館という実践の場でどのように機能し、それが美術館の未来にどのような地平を切り開くのかを議論します。

日時：1月28日(土) 13:00～17:30(開場12:30)

会場：企画展示室1E 参加費：無料・申込不要 定員：100名(先着順)

登壇者：今井朋(アーツ前橋学芸員)

下道基行(美術家・写真家)

鈴木勝雄(東京国立近代美術館主任研究員)

中村史子(愛知県美術館学芸員)

橋本一徑(早稲田大学文学学術院准教授)

長屋光枝(国立新美術館主任研究員)

横山由季子(国立新美術館アソシエイトフェロー)

※日本語のみです。

3 アーティスト・ワークショップ SPREAD

Next 10 years

～色と形でデザインする わたしの未来～

クリエイティブ・ユニットSPREADを講師に迎え、ワークショップを開催します。テーマは、色と形で表現する10年。自分のこれからの10年やそれを取り巻く社会を想像しながら、一年一年を色と形で表したポスターをつくりまします。あなたは、次の10年をどう過ごしますか？人々のイマジネーションを広げ、創造力を引き出すデザインを発信し続けているSPREADとともに、これからの10年を色と形でデザインします。

日時：1月29日(日) 13:00～17:00

会場：企画展示室1Eおよび別館3階多目的ルーム

参加費：有料・事前申込制

対象/定員：一般(中学生以上)/20名

※申込方法の詳細は、決定次第ホームページ等でお知らせします。

※日本語のみです。



撮影者：神宮巨樹

SPREAD

小林弘和と山田春奈によるクリエイティブ・ユニット。環境・生物・物・時間・歴史・色・文字、あらゆる記憶を取り入れ「SPREAD＝広げる」を生み出す。主な仕事に、CDジャケット「相対性理論／正しい相対性理論」、工場見学イベント「燕三条 工場の祭典」、ストールブランド「ITO」、「萩原精肉店」VI など。2004年より、生活の記録をストライプ模様で表す「Life Stripe」を発表して注目を集め、スパイラルガーデン(東京、2012年)、ミラノフォリオサローネ(イタリア、2012年～)、Rappaz Museum(スイス、2014年)などで個展を開催。国立新美術館開館10周年記念ビジュアルのデザインを手掛ける。

4 狂言公演 山本東次郎家一門

演目:

狂言「福の神」

大晦日の夜、神前で年越しをする信心深い二人の男、そこへ高らかな笑い声とともに福の神が現れ、幸福になる秘訣を授ける。

狂言「鬼の継子」

幼子を抱いて里帰りする女の前に現れた鬼。子供の命を奪うと脅され、やむなく鬼の妻になることを承諾するが・・・。

狂言「呼声」

無断欠勤の太郎冠者に怒った主人、叱りつけようと家へ向かうが、太郎冠者は居留守を使う。そこで主人は・・・。



狂言「福の神」 撮影者:三上文規

山本東次郎

大蔵流狂言方。1937年生まれ。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。

5 建築ツアー 歩く・見る・知る美術館

開館10周年を迎える国立新美術館の建物内を巡りながら、建築の特徴や美術館の活動について紹介するツアーを開催します。美術館スタッフや学生ボランティアの解説とともに、黒川紀章・日本設計共同体が設計した美術館のダイナミックな空間をお楽しみください。

会場:国立新美術館館内各所

参加費:無料・事前申込制

協力:株式会社日本設計

※開催日時や申込方法の詳細は、決定次第ホームページ等でお知らせします。
※日本語のみです。



6 ロビーコンサート 仲道郁代

国内外での受賞を経て1987年ヨーロッパと日本で本格的にデビュー。近年は、ショパン、ベートーヴェンなどのシリーズ企画でのコンサートなどが好評を得ている。2016/2017年はデビュー30周年を迎え、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団との共演や多彩なプロジェクトが進行している。レコーディングはソニー・ミュージックジャパンインターナショナルと専属契約を結び多数のCDをリリース。

<http://www.ikuyo-nakamichi.com>

日時:1月27日(金)18:30~19:30(開場18:00)

出演:仲道郁代

会場:1階ロビー

観覧料:無料・申込不要



撮影者: Kiyotaka Saito

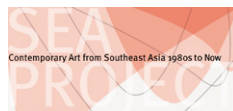
同時開催プログラム

1 特別上映会

映画から見るシンガポール・マレーシアのアイデンティティ

「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」関連イベント

国立新美術館、森美術館、国際交流基金アジアセンターは、2015年より東南アジアの現代美術の調査活動を行うSEAプロジェクトを立ち上げ、2017年夏には「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」を共同開催いたします。展覧会の関連イベントであるこの特別上映会では、「サンシャワー」展を構成するセクションのひとつである様々なアイデンティティの問題を扱った、シンガポールとマレーシアの映画を上映いたします。



SEAプロジェクトホームページ
<http://seaproject.asia/>

日時：1月22日(日) 上映会+トークショー 13:00~18:00(開場12:30)
1月29日(日) 上映会のみ 13:00~16:30(開場12:30)
※終了時間は変更になる可能性があります。詳しくはホームページをご覧ください。
会場：3階講堂 定員：260名(先着順) 観覧料：無料・申込不要

2 地域で共に生きる 障害児・障害者のアート展

重度障害児を対象とした事業を通じて、あるいは港区内の障害者施設で制作された作品を展示することで、広く一般の人に障害者への理解を深めてもらう機会をつくります。

会期：1月18日(水)~1月30日(月) ※1月24日(火)は休館
時間：10:00~18:00
金曜日、土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)
会場：企画展示室1E 観覧料：無料
主催：港区 共催：国立新美術館

3 ミュージアムショップ 「毎日ハレの日」展

国立新美術館内にあるミュージアムショップ「スーベニアフロムトーキョー」は漫画からアートブック、工芸品、若手デザイナーの作品まで、知名度やジャンルにとらわれることなく、東京の視点で新しいデザインやアートをお届けしています。地下1階にあるSFT GALLERYでは、年間約6組の展示を開催し、アートやデザインに日常的に触れ、楽しむためのきっかけを提供しています。国立新美術館とミュージアムショップ「スーベニアフロムトーキョー」が選んだ若手アーティスト・デザイナーの作品や、購入して持ち帰り身近で楽しむことのできるプロダクトなどを紹介しています。



6名の作家による企画展
家族が集まる食卓を日本らしく
彩る器とお飾り。
ぜひこの機会にSFT GALLERY
でお楽しみください。
出展作家(敬称略):
猪狩 史幸、小林 耶摩人、
坂場 圭十、中園 義光、
長浦 ちえ、広川 絵麻

会期：2016年11月9日(水)~2017年1月30日(月) ※火曜休館
時間：10:00~18:00 金曜日、土曜日は20:00まで
会場：地下1階 SFT GALLERY 観覧料：無料
問い合わせ先：株式会社ウエルカム TEL:03-5770-7418
E-MAIL:information@souvenirfromtokyo.jp

4 カフェ・レストラン 10周年特別メニュー

国立新美術館内カフェ・レストラン4店舗にて、「10周年特別メニュー」をご提供いたします。国立新美術館3F「プラスリー ポール・ボキューズ ミュゼ」では、開館10周年記念ウィーク期間中、フランス料理界の重鎮ポール・ボキューズ氏のスペシャリテ尽くしの特別メニューをご用意いたします。



10周年特別メニュー

B1F~2Fのカフェ3店舗では、期間限定スペシャルドリンク「マロンのカプチーノ」をご提供いたします。この機会にぜひお立ち寄りください。



3F プラスリー ポール・ボキューズ ミュゼ



B1F カフェテリア カレ



1F カフェ コキョウ



2F サロンド・テ ロンド

特別メニュー提供期間：1月20日(金)~1月30日(月)

営業時間：

カフェ B1F・2F 11:00~18:00 金・土は~19:00 (L.O.は30分前まで)
1F 10:00~18:00 金・土は~20:00
レストラン 3F 11:00~21:00 金・土は~22:00 (L.O.は90分前まで)